

対馬からオオトゲバゴマフガムシの記録

さかい よしあき
境 良朗

ゴマフガムシ属 *Berosus* は日本からは8種が知られるが、これまで対馬からは記録がない（新田・吉富, 2012；中島ほか, 2020）。オオトゲバゴマフガムシ *Berosus incretus* d'Orchymont, 1937 は日本では本州・四国・九州・南西諸島から記録があるが産地は非常に局地的で、特に九州本土域では鹿児島県から知られているに過ぎない（新田・吉富, 2012など）。今回、対馬で本種を初めて確認することができたので報告する。

採集者は、すべて筆者であるため省略した。

多数、長崎県対馬市豊玉町佐保, 11. V. 2020；多数、同地, 24. V. 2020；多数、同地, 15. VI. 2020；多数、同地, 11. IX. 2020

生息地は海岸近くの恐らく廃田跡だと思われる湿地で、数日降雨がなければ干上がるような不安定な環境である（写真3）。

本属のうち翅端に棘をもつ数種（トゲバゴマフガムシ亜属）はいずれも酷似しており、同定にあたっては後胸腹板の形態だけでなく、体長や各部の形質（前胸



写真1. 対馬産オオトゲバゴマフガムシ♂ (左: 背面全形, 右: 交尾器)



写真2. 後胸腹板 (上) と腹部腹面 (下) (左: ♂, 下: ♀)



写真3. オオトゲバゴマフガムシの生息環境

背の点刻、翅端棘長、交尾器中央片など)を総合的に見ていく必要がある。今回採集された対馬産の個体について、交尾器中央片は新田・吉富(2012)に図示されたものとはほぼ一致していたが、体長は4.1～5.1mm(n=18)、平均値4.47mmで新田・吉富(2012)で示された他産地の測定値5.04mmより明らかに小型の集団であった(写真1)。また、後胸腹板などについ

ても若干の変異が認められたため(写真2)、標本を中島淳・渡部晃平の両氏に精査いただいたが、総合的に見て本種と同定してよいとの結論を得た。本属は同所的に複数種が見られることもあるようなので、今後も注意深く調査を続けたい。

最後になるが、同定の労をとられると共に貴重なご助言、ご指導をいただいた中島淳・渡部晃平の両氏にお礼申し上げる。

○引用文献

中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之,

2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫: 141, 316. 文一総合出版、東京.

新田涼平・吉富博之, 2012. 日本産ゴマフガムシ属

Berosus(コウチュウ目、ガムシ科)の分類学的再検討.
さやばねニューシリーズ(7): 18-31.